

みどりの地球
を
みどりのままで

共生の時代

'07
9月

●発行:グリーンコープ連合理事会 ●編集:共生の時代・編集部 ●〒812-8561 福岡市博多区博多駅中央街8番36号博多ビル7階 TEL092(481)7923 FAX092(481)7876



日本ファイバーリサイクル連帯協議会理事
海外事業担当事務局
ホームページ: <http://www.f3.dion.ne.jp/~jfsa/>

西村 光夫 さん

プロフィール

1949年宮崎市に生まれる。学生時代は山谷(東京にある日雇い労働者の住む下町)で子ども会活動を続けた。1983年生協協同組合の人々と共に地域のツッパリ君たちとリサイクルセンターを設立。1993年JFSA(日本ファイバーリサイクル連帯協議会)設立にかかわる。現在、海外事業担当事務局・理事として1年の約半分をパキスタンで過ごす

秋の強化月間 はじまる



Contents

さらなる食の安心・安全を求めて	
中国産の商品・原料に関するグリーンコープの考え方	2
うちのメーカー・うちの生産者(7)	
めぐみの会 柿	3
2007年 共生・平和長崎自転車隊 2007年度 第1回平和学習会講演要旨	
「平和」の種を育て「不戦」を守っていきましょう!	4・5
グリーンコープ「子どもたちの夏」	
酪農ホームステイ 行って!見て!体験!アドベンチャー綾!! 岡山ふたみ牧場ファームステイ	6
「ピョン・ファ・エ・ダリ韓国への旅」報告	
未来へ語りつぎたい日韓の歴史と不戦への思い	7

わしはいつでも「地域のおじさん」でいたい

青

春は学生運動と共にあった年代だ。大学卒業後は堺市にある児童養護施設に児童指導員として入職。「さまざまな問題を背負った子どもたちのケアをここでしていましたが、卒園間近になると面会にほとんど来なかった親が迎えることがあつた。その子たちは、問題を抱え込まれてしまった地域へまた戻されてしまうのです」。

望んでいるんです。西村さん30歳の時に創設した私塾「寺小屋」はそうした彼らと親・先生以外の大人たちが交わりあう「溜まり場」だった。そこで彼らの話を聞き勉強をみて、4年後には自立のためのリサイクルショップ・便利屋「ユーズ・リサイクルセンター」を設立する。地域に開かれたショップは時流に乗った。やがてその運動がJFSA設立につながっていくことになる。

め、警察や諸機関のシステムに依存してしまい、自分のできることをシステムに預けてしまっている社会にすることに気付かされました。それを契機に西村さんはパキスタンを訪れる。JFSAの仕組みをより豊かにするために必要なものに助けあう関係、「相互扶助」だと思に至る。現地でのパートナーとなるアルカイール・アカデミーの校長ムザヒルさんと出会う。彼もまた、一方的な支援ではなくスラムの子どもたちに寄り添い学びの場を築いていた。こうして、人のつながりという命を吹き込まれたファイバーリサイクルは1995年ゆつくり動き出した。

西村さんは言う。「古着を送るという行動で、パキスタンという国のありのままの暮らしと、極貧の中で懸命に生きようとする子どもたちに出会えます。その子どもたちに思いを馳せることは、自分の子育てをきつと豊かなものになります」。

※スラム地域にある無料の学校

今年長崎では、森林の荒廃を食い止めることを目的とした「森林環境税」がスタートしました。森林整備の緊急性を考慮してのことです。また、透明性・公平性を図るために「基金管理運営委員会」が管理運営にあたることとなり、その就任依頼が長崎県林務課からグリーンコープ(長崎)に届きました。依頼があるまでまったくの無知でしたが、好奇心もあり、役割を受諾しました。運営委員名簿が揃っていると、森林関係の活動家が揃っています。グリーン」という名前に動揺いされたのだろうか、と思いつつも、基金管理については「1000円基金」の経験が生かせるかもしれない。何よりも新しい出会いが楽しみです。生協活動へ支障をきたさないよう、役割を果たしていきたいと思つています。

送 信

後藤 典子
グリーンコープ生協長崎理事

うちの生産者

77

福岡県朝倉市杷木
めぐみの会

うちのメーカー



秋の味覚

柿

めぐみの会



柿は日本人にとってなじみの深い果物、秋を彩る代表的な果物として人々に親しまれてきた。歴史は古く、中国大陸から伝わり古事記や日本書紀にも記述がある。今日のように多くの品種が栽培されるようになったのは明治時代と言われている。

7月半ばの柿畑を訪ね、産直生産者として独自のこだわりを持ち柿を栽培してきためぐみの会代表小ノ上喜三さんらメンバーに話を聞いた。



▲ピンポン玉大の実がなる7月の柿畑



小ノ上 恵さん 小嶋 主さん
井手 朝子さん 小ノ上 喜三さん

めぐみの会のある朝倉市杷木は、筑後川流域に広がる肥沃な土壌と天然水に恵まれたところ。一年をとおして温暖な気候とならかな丘陵地形を生かして、柿をはじめ梨やぶどう、桃など果物栽培が盛んだ。

小ノ上さんとグリーンコープとの出会いは1980年に遡る。これまでの農協への出荷から直売へと柿の販路を広げようと考えていた。同じように農業へのこだわりを持ち福岡県桂川町で米のアイガモ農法を先駆的に行っていた農業者からグリーンコープ生協へおかの前身の地域生協を紹介された。1984年、地域の柿生産者に声をかけ、グリーンコープの産直生産者グループめぐみの会としてスタートした。柿の他、すももや梨、巨峰を出荷している。現在会員は11人、柿を出荷しているのは小ノ上さんと井手義信さん、小嶋主さんの3人だ。

慈しんで柿を育てる

果樹と野菜は栽培方法に違いがある。野菜は種や苗を育てその年に収穫して終わるのに対し、果樹は何年も同じ木から収穫する。毎年安定した品質と収穫量を得るには、樹の生理に沿って季節ごとに手を施す必要がある。その結果として秋には甘くおいしい実となる。



作業車が行き来できるように階段状に整地した柿畑

その対策として気温や降水量との関係を突き止めた。バケツを利用した簡易雨量計で降雨量をデータ化し、効果的な農薬散布を施した。結果、翌年は大豊作となった。このように自ら体験したことを分析・データ化し、ピジュアル化したものは「小ノ上流」とも呼ばれる。こうしてめぐみの会は独自の農法をつくりあげていった。

顔の見える産直を後世に伝えたい

柿の樹齢は長いもので200年とも400年とも言われている。2001年に就農した小ノ上さんの三女恵さんは、会の期待の後継者だ。めぐみの会の夢を託そうと翌年新しく畑を整え1200本の若木を植えた。

過去の台風で山が全滅した時、グリーンコープから届けられた産直基金に「グリーンコープが私たちの産直をいかに大切にしているかが分りました」と当時を振り返る。

食文化や嗜好の変化の中で、昔ながらの季節の味を伝える柿を「食べもの」として大切に育てているめぐみの会。その実直さは柿と共に次の世代へと受け継がれていくに違いない。

果物栽培には、台風や長雨など天候対策はもちろん、炭そ病やカメムシ、うどんこ病など果物特有の病虫害対策が欠かせない。2004年、収穫期にさしかかる

8月中旬から10月の間、九州地方を襲った四度の台風による被害には自然の脅威を思い知らされた。枝は折れ落葉し、その後発生した炭そ病でほとんどの実が落下してしまつた。炭そ病は、病原菌の糸状菌(カビ)を含んだ雨の雫が葉から枝へと入り幹を侵し、最終的には木を枯らしてしまう。減農薬栽培をめざし農薬散布回数を地域の半分程度に減らしていたところに多量の雨が引き金となり、炭そ病の大発生につながった。これをきっかけに炭そ病の発生メカニズムについて学び、

めぐみの会では安定的な収穫量を確保するために高所作業車や農薬散布車、乗用草刈機などを導入して作業を効率化してきた。剪定や摘蕾など、どの枝に何個の蕾を残せばいいか、どの枝を剪定したらいいのかなどをこれまでの実績を検証しマニュアル化している。それらの作業に地域の人たちがパート従業員として働いている。その他、選果場でのパック詰め作業も委託するなど、地域の雇用にも貢献している。

グリーンコープの青果物は、基本的に有機、無・減農薬で栽培されているが、柿を含む果物の中には慣行栽培に近いものもある。その場合使用する農薬は発がん性や環境ホルモン作用の恐れのあるものは極力排除し、土壌消毒剤や除草剤などを使用しないこととしている。

柿の育成と作業のながれ

1月 **剪定**
大きな実を付けるために樹全体に陽がよく当たるように枝を落とす

3月 **発芽**
冬の間は固くしっかりとしていた芽が若葉色に芽吹く

4月 **摘蕾**
大玉の柿を付けるためたくさんの蕾を手作業で取る

5月 **開花**

7月 **摘果**
傷付いた実や、形の悪いもの、小さい実を落とす。摘蕾で見落としていたものもあるので入念に行う

10月 **収穫**

12月 **出荷**

冷蔵での出荷

9月頃まで 防除

色付き具合を確かめながら、ていねいに収穫する。傾斜のある畑の作業には高所作業車が活躍。体への負担も少なく効率的だ

炭そ病にかかった枝

炭そ病でほとんどの実が落下してしまつた

を守っていきましょう!

みなさん、お疲れさまでした。大変暑い中、無事にたどり着くことができました。ここにたどり着くまで、たくさんの一生懸命があつたと思えます。銀輪隊、自転車隊のリーダーや仲間



〈平和のつどいのあいさつ〉
グリーンコープ連合
会長 吉田 文子さん

グリーンコープ共生・平和長崎自転車隊
第15回 共生・平和銀輪隊
第20回 共生・平和自転車隊



全員集合!



がんばります!



大川橋通過 AM6:50



長い上り坂が続く日見峠を上る



爆心地にある殉難之霊の碑に折鶴を奉納しました

今年4月長崎市長が凶弾に倒れ、6月末には閣僚の長崎原爆投下に関する耳を疑うような発言が明らかになるなど、「生命」の尊さが踏みにじられているような状況の中、人々の心に不安が募っています。グリーンコープは「不戦」を平和の原点に掲げ、生命と寄り添い、生命と共に生きることを求め続けています。

今年も8月8～9日、「共生・平和長崎自転車隊」が実施されました。真夏の厳しい暑さの中、銀輪隊54人と自転車隊113人、応援とスタッフを含む総勢500人が柳川から長崎までの125kmを自転車で行き、「平和」と「生命」の大切さを共に確認しました。

なお、今年度の「共生・平和長崎自転車隊」は取り組み主体の一つであった無名舎が解散したことから、グリーンコープ生協ふくおかとグリーンコープ連合の二者で準備をすすめてきました。



「体」と「心」で「平和」と「幸せ」を感じましょう



〈出発のあいさつ〉
グリーンコープ連合
専務理事 片岡 宏明さん

みなさん、おはようございます。第二次世界大戦が終結し今年で62年です。今なお、世界のさまざまな国と地域で戦争が起きています。日本では閣僚が戦争を容認する発言を繰り返しますが、私たちは、原子爆弾で多くの人間が殺されたことを「しょうがない」などと言うことを絶対に許しません。

一方、人間は過ちを犯します。過ちを犯した時、大切なことは反省し経験に学ぶことです。そして、経験していない者は歴史に学ぶことが必要です。私たちは改めて、戦争(人間が人間を殺すこと)を絶対に否定することを確認したいと思います。

「戦争」や「平和」や「幸せ」は、いつも私たちの「心」の中にあります。その「心」が「戦争」を引き起こしたり、「幸せ」や「平和」を築きます。「戦争」を否定し、「平和」と「幸せ」のために大切なことは、自分を大切にする気持ち、それと同じように他人を思いやる気持ちです。

私たちは今から、「原爆の地 長崎へ」と「不戦」のゼッケンを胸に付け、原子爆弾が投下されてから62年目の長崎に向かいます。暑い中、自転車での長崎までの道のりはほんとうに大変です。一人ひとりが一生懸命に走ることが原点です。そして、一緒に走る仲間と助けあいながら走ります。家族と多くのグリーンコープの仲間が沿道から応援してみんなを支えます。一生懸命に頑張る自分、仲間を気遣う自分、自分や仲間を気遣う仲間、応援してくれる家族や仲間感謝しましょう。体に入る汗、真夏の照りつける陽射しと爽やかな風を受ける皮膚、自らの生命を感じ、生命の大切さと尊さを感じましょう。そして、私たちは「体」と「心」で「平和」と「幸せ」を感じましょう。

8月9日午前11時2分、長崎の爆心地公園において原子爆弾で亡くなられた人たちの魂をしずめ、戦争に絶対的に反対する私たちの想いを発信します。そこで誓いましょう。「平和」と「幸せ」をみんなで守って育てていくことを。

長崎までの道のりは大変ですが、安全に配慮して、事故を起こすことなく、生命を大切に元気に走りましょう。



「平和」の種を育て「不戦」を

かすつと一緒だから頑張ることができ、応援隊のみなさんの声を支えに走り抜くことができました。子どもと大人が平和のことを強く意識してみんなで汗をかく、そのことをとおしてお互いを思いやり、一人ひとりが大切に守られたことをあらためてみんな感謝したいと思います。

平和のつどいの後、私たちは原爆資料館を訪れます。そこで目にするのは62年前のこの時間、この場所で、原子爆弾によつてどんなに悲惨な状況が起こったかです。それは人間がもたらしたものです。しかし、人間がすることは人間だけに止めることができます。自転車の取り組みをおして、心の中に平和の種をもらった私たち一人ひとりが、平和の苗を育て、不戦を守っていきましょう。



銀輪隊代表 山本 将晃くん(中2)
(グリーンコープ生協くまもと)

僕たちは絶対戦争を起こしてはいけません。世界中のすべての人々が戦争やテロに苦しまず平和に暮らせることを心から望みます



昼食のあとの記念撮影 AM11:20



諫早到着。まとめ集会で自転車隊の子どもたち有志が「祭り太鼓」を披露する



蛍茶屋からロードランナーズを先頭に三列縦隊になって爆心地である松山公園をめざし疾走する

5月14日、2007年度第一回平和学習会が行われ、岡長治相談役を講師に開催されました。テーマは「不戦決議 自己表現と自己中心性について」、会員生協理事長をはじめ、連合組織委員ら36人がグリーンコープの不戦決議について学びました。講演要旨を紹介します。

「不戦決議」はグリーンコープの平和論

「不戦決議」は1995年グリーンコープ連合第三期通常総会で、「グリーンコープの平和論」として採択された。戦後50年という節目の年に、日本がかつて戦争を發動したという事実を踏まえて、初代グリーンコープ連合会長・故武田桂二郎が書き残したものがグリーンコープの平和論として確認され、まとめられた。「不戦決議」の各項目で表現されている内容についての解釈は次のとおりである。

一、そのままの意味。

二、「国のために死ぬのは泰山より重い」(毛沢東)や「武士道は死ぬこととみつけたり」という言葉がある。その言葉には生命そのものに価値がない、どのよ

不戦はグリーンコープの原点です

- 一、戦争は最大の暴力である。兵器と軍隊は最大の暴力装置である。私たちはこれを否定する
- 二、私たちは、平和と生命そのものには価値がある、平和と生命そのものに価値がある、だから私たちは平和と生命を賭してでも平和と生命を守ろうとするだろう、しかし、むしろそれ以上に、私たちが平和と生命を賭してでも平和と生命を守らなければならない状況そのものを否定する、守る行為さえ肯定はしない、という考えを対置する
- 三、私たちは、平和は部分的に腐る、という現実には耐える
- 四、私たちは、法が暴力から人間を守る、しかし次の次元では法そのものが人間に対する暴力に転化する、悪循環である、という現実を見ずえる
- 五、私たちは暴力の根源を人間の本性に還元しない
- 六、私たちは、暴力の根源は、完全な情報公開、徹底的な話し合い、機敏で責任ある対応、この三つの構造的な欠落にあると考える
- 七、私たちは今、平和と生命は生協運動にこそ不可欠であると思う。生協運動の自主性も地域性も戦争という最大の国家性と職業性に消される

最後に私たちは、戦争と暴力を日常的に無化していくために、私たち自身の中にある「人としての自己表現、特にその自己中心性(これが何時でも支配、圧政、侵略、特に正義に化ける)」—その意味で戦争と暴力の本質的な原因—と日常的に、根気よく格闘していかなくてはならないことを、私たちの判断として確認しておきたいと思えます。何故なら、こうした判断と格闘が多重で頑丈で信頼に値する分だけ、戦争と暴力の可能性は確実に私たちから遠ざかるはずだからです。

不戦はグリーンコープの原点です。

「自己表現」は自分を生かす権利である

人間の最も基本的な権利は、生存と自己表現の権利である。「生存の権利」とは、理不尽に殺されたりしない権利である。「自己表現の権利」は、自分を生かす権利である。分かりやすい例は「踊る」「歌う」「書く」など。「労働」も人間にとって最大の「自己表現」だ。労働を奪われることは自己表現手段が奪われることだ。自己表現の欲求は時間の経過と共に強まる。グリーンコープは、そういう時代に誕生した生協である。従って、グリーンコープが人間の自己表現の欲求を尊重する限り、グリーンコープに参加する人はまだ

「自己中心性」と「根気よく格闘していく」自己表現とは人間の基本的権利であり、自己表現は自己中心的になりがちな面があり、それによって他人を傷つけることを覚悟しなければならぬ。そのために自己表現そのものを抑圧するという方法がとられる。私たちはそうした解決方法に反対し、自己表現の権利を絶対的に尊重したいと考えてきた。そして、自己中心性と根気よく格闘していく。自分を抑制して、他人から自己中心性に見えるやめ、お互いの関係性をつくっていくことを考えてきた。しかし、人間は貧しい自己中心性によって、支配や抑圧をしようとしてきた。特に、正義の名のもとに「戦争反対!」と叫んだり、集団の中で残酷なリンチが行われ、人々が抑圧されてきた。グリーンコープはそうしたことと断固と闘ってきた。今後は、本気で自己と格闘していくことが必要だ。

生命

酪農ホームステイ
7月23日～25日

グリーンコープの組合員の子どもたち(小5～中2)53人が生産者宅に泊まって酪農作業を体験しました

酪農家の大変さを知った

グリーンコープ生協くまもと

豊田 あづみさん (中2)



ぼくがこの2泊3日のホームステイで一番心に残ったのは、子牛の出産を見たことです。出産を見たのは、ホームステイ先に行つてすぐでした。牛舎を見ていたら牛が座つていて、おしりの所になんだかブヨブヨしたのがあって、牧場の人に聞いてやつと出産しているんだと分かりました。5分ぐらいして牧場のお兄さんが牛の赤ちゃんが入つてきた袋をやぶると足が出てきました。前足から出てきている



グリーンコープ生協ふくおか
山下 浩史くん (小6)

2日目、まだ暗い5時頃に起きて手伝いをしました。とても眠かつたけど、お手伝いをした後の朝ごはんは、いつもよりもとてもおいしく感じました。夕方は、搾乳と子牛のミルクやりのほかに、ふんの

のか、後ろ足から出てきているのか聞くと、普通は後ろ足から出るそうです。その足に消毒をしたひもをひつけて、引っぱつたけどびくともしませんでした。それで、牛を牛舎のさくに結び付けて、引っぱる力が強いひもで引っぱると、どんどん子牛が出てきました。その子牛は逆子で頭から出てきました。出てきた子牛を母牛は一生存けんめいなめていました。その間に、母牛が自分の子にいつでも乳を飲ませられるようにと、だれも

さわつていないのに乳が出ていました。でも、あるていどなめさせたら、子牛を違う場所に移しました。その理由は、あまり一緒にいると愛情がわいてしまつて、その後引き離すと鳴いて、鳴きまなかつたり、乳を出さなくなるそうです。分かつてはいても、少しかわいそうでした。その子牛は30分もすれば立つそうです。こんな、神秘的な体験をしたのは初めてだったので、「生命つてすごいな」と思いました。



掃除をしました。思った以上にとても重く大変でした。こんなについ仕事を毎日しているのかと思うとすごいと思いました。3日目、最後の手伝いをしました。酪農家の方も一緒に泊まつた福岡の女の子もみんな親切でやさしい人ばかりでした。だからとてもさびしい気持ちになりました。私は今回の体験で酪農家の大変さを知り、牛乳をありがたく飲みたいと思いました。 ※J-A菊池農業総合情報センター

2007年

子どもたちの夏

今年も、グリーンコープの子どもたちが夏休みを利用して生産者を訪ね、宿泊や酪農作業など貴重な体験をしました。

びん牛乳のふるさとである熊本県菊池地域の酪農家を訪ねる「酪農ホームステイ」。2006年にはじまり中国地方の取り組みへと広がった「岡山ふたみ牧場ファームステイ」。南九州地方の取り組みとなって3年目の「行って!見て!体験!アドベンチャー綾!!」。

子どもたちはあふれる自然の中で思い出をいっぱい作りました。ワクワクドキドキの体験記を紹介します。



岡山ふたみ牧場
ファームステイ
7月21日～22日

産直国産牛の生産者をひろしま・とっとり・島根・おかやまの子どもたち15人が訪ね、牛の世話などを体験しました

行って!見て!体験!
アドベンチャー綾!!
7月21日

かごしま・みやぎの組合員31人と子どもたち28人が宮崎県綾町の生産者と交流しました

ぼくははじめて「あや」に行きました。さいしょにブタのし料工場で、生まれて1週間たつたブタを見ました。さわると、小さくて熱くてかわいかったです。ブタの食べられるところは、体の半分ぐらいの量だそうです。大きくなるまでに、とてもたくさんのおえさが必要なのが分かりました。「す」の工場にはたくさんのおえさの「かめ」があつて、「す」のできぐあいを知らために、かめの上に5円玉が置いてありました。色が

広いはたけの「さつまいも」や「ごぼう」ほりは、弟と長ぐつをはいてどんどんほりました。土の中からぬくのがおもしろかったです。ぼくはごぼうを食べるだけで、土の中からほつてとるのははじ

「ブタは小さくて熱くてかわいかった」
グリーンコープかごしま生協 上田 侑弥くん (小2)



めてでした。あやでは、はじめて見たり、やつてみたりすることがたくさんありました。あやに行つてお肉ややさいをつくってくれる人に「食べものは大事にしてね」とおしえてもらいました。いつまでもおぼえていきたいです。

牛にえさの麦わらをあげたよ

グリーンコープ生協 (島根)

田村 奏くん (小3)

21日・22日に岡山ファームステイに行つたよ。行つた所は「ふたみ牧場」だよ。はじめにふたみ牧場をたんけんしたよ。そしたらポニー、ひつじ、子牛もいたよ。牛小屋に行つたら牛がいっぱいいたよ。牛を見た時、でかくてびつくりしたよ。その後、水飲み用の水そうをそうじしたよ。ほろろと水をおすようにしてやつたらきれいになつたよ。次の日の朝、牛のえさやりをしたよ。麦わらをあげたよ。朝は麦わらしかあげなかつたよ。何頭牛がいるか数えてえさをはかつたよ。えさは四角にかためてあつたからほぐしてあげたよ。麦わらをほぐしている時もぼくをなめてきてびつくりしたよ。麦わらを1頭1キ口食べるのがすごいと思つたよ。2日間楽しかつたです。また行きたいです。スタッフのみなさんありがとうございます。

未来へ語りつぎたい 日韓の歴史と不戦への思い

グリーンコープ連合組織委員長 園田 由紀子

第11回 ピョンファ・エ・ダリ (平和の橋)
韓国への旅 7/21~7/23

今年も平和の取り組みの一つとして「ピョンファ・エ・ダリ (平和の橋) 韓国への旅」が行われ、地域で平和の取り組みを担う組合員・事務局など14人が参加しました。



▲景福宮にて (7/23)

福岡空港を離陸し1時間足らずで、韓国・仁川空港に到着しました。塩田や、広大な干潟の風景を眺めながらバスは一路ソウル市内へ。ソウルは、人口1050万人の韓国の首都です。そのソウル市を通り抜け、空港から約2時間、トマトのピニールハウスが広がる長閑な田園地帯の中に、「ナムムの家」がありました。「ナムムの家」は、太平洋戦争末期、日帝日本帝国主义侵略によって性的犠牲を強いられた女性たちが集まり生活している場です。現在80歳から89歳

まで9人が暮らしています。今回、ハルモニたちとの直接の交流はできませんでしたが、亡くなられたハルモニの追悼ビデオを視聴し、「日本軍慰安婦歴史館」に展示されたたくさんの方の資料をもとに、日本人スタッフから詳しく説明してもらいました。15~16歳で慰安婦にさせられた人も多く、60年を超える歳月の孤独と悲しみを思うと、同じ女性として、その年頃の娘を持つ母として、いたたまれない気持ちでいっぱいになりました。

歴史の重さにふれて 過去の事実を受け止める

2日目、まずは独立記念館へ向かいました。独立記念館は、1980年代の「日本の教科書問題」をきっかけとして、韓国国民の寄付金によって1987年に開設された資料館です。100万坪を超える広大な敷地の中に「近代民族運動」や「日帝侵略」などのテーマの7つの展示館やたくさんのモニメントがあります。日本の武力による侵略によって朝鮮という国、民族、文化がどのように弾圧されていったか。そしてそれによってもたらされる民族精神抹殺の危機や苦難をどのように乗り越え独立を

求めていったのか、多くの歴史資料をとおしてさまざまなことができました。その後、西大門刑務所歴史館へ向かい、当時のまま生々しく残されている獄舎、拷問室、死刑場などを見学しました。拷問のようすや投獄された人々のようすを知り、このような目に遭いながらも朝鮮民族としての誇りを失わず、独立を叫び続けた人々がいたことに強い尊敬の念を抱くと共に、人間をここまで残酷なものに変えてしまう「戦争」に心底恐怖を感じました。日韓の歴史について、少しは知っていたつもりでしたが、事実を目の前に突き付けられると言葉もなくなってしまうました。しかし、このような重たい日程の中、デュレコープ旧韓国生協首都圏連合会とハンサリム生協との心温まる交流をとおして、過去の事実をきちんと知ったからこそ、未来へ向かって手をつないでいくことができるのだということを体感しました。

今回の体験を一人でも多くの人に伝えて、「不戦」の大切さ、「平和」の素晴らしさを未来へ語りつぎたい。今私たちが責任なのだと痛感しました。



デュレコープとの交流

容器包装3R推進

環境大臣賞「最優秀賞」受賞!

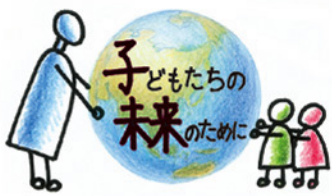


グリーンコープの提携業者であるリバーグリーンの川上 工さんに受賞の「分かちあい」をするグリーンコープ連合吉田文子会長

グリーンコープが環境を守る取り組みとして、全国の生協の仲間と共に展開している「びん再利用ネットワーク」が、第一回環境大臣賞・地域の連携協働部門で「最優秀賞」を受賞しました。

びん再利用ネットワークの構成団体は、生活クラブ生協連合会、パルシステム生協連合会、東都生協、新潟県総合生協、生協連合会、あわせて組合員数190万人が参加しています。1994年に設立、ごみ問題と向きあいながら運動を推進させてきました。びんリユースの実践によって削減されたCO₂は東京ドーム14個分になりました。この運動は消費者だけではなく、提携メーカー、びん製造メーカー、洗びん業者などとの連携が欠かせません。今回の受賞を契機に循環型社会の実現に向け、さらなる運動を広げていきます。

※リデュース・リユース・リサイクル。グリーンコープはリデュース(買わない)を含めた4R運動を推進している



No.2

原子力発電がしていることは

原子力というと、科学の最先端で、とても難しいことをしているかのように思われます。しかし、やっているのはお湯を沸かして、沸かした湯気でタービンという羽根車を回し、電気を起こすだけです。

ではなぜ、原子力が途方もなく危険なのかといえば、ウランやプルトニウムが燃える(核分裂する)時に放出されるエネルギーを利用するからです。核分裂の際に核分裂生成物(死の灰)ができます。この物理的な事実が原子力の抱える危険の根源となります。

標準的規模の100万kwの原子力発電所では、1年間に約1トンのウランを燃やします。その分、死の灰を産み出すこととなります。1986年4月膨大な危険物を内包したチェルノブイリ原子力発電所が事故を起こしました。そして、日本の本州の6割に相当する14万5千km²の土地が汚染されました。そのうち特に汚染の激しい地域の40万人以上が生まれ育った土地に住めなくなりました。

このような危険と隣りあわせの原子力発電所はありません。

「原発の放射性廃物の問題について」(講師・小出裕章氏) -2004年度グリーンコープ連合脱原発学習会(2/12)の講演録より引用-

グリーンコープ連合組織委員会

言・い・忘・り 読者投稿欄

新テーマで募集中

- 思いがけない家族のひと言
- とっておきの一枚
- 私の好きな花

- 400字程度 ● 月切 毎月末
- 住所・氏名・年齢・TEL・所属生協名を明記して郵送またはFAX、Eメールでお送りください。掲載分には図書カード(500円分)進呈。
- 住所・氏名などの組合員の個人情報は、本紙に掲載の場合のみ使用します。

〒812-8561 福岡市博多区博多駅中央街8-36 博多ビル7F
グリーンコープコミュニケーションワーカーズ 連(REN)
「共生の時代」編集部 宛
FAX 092-481-7876
Eメールアドレス rikoho@greencoop.or.jp

いま地域を考える

No.182

それぞれの生きがいをもとめて



明るい工房内のような。クッキーは店頭販売も行っている



手作りクッキー「リトルベアー」

知的障がい者と高齢者の福祉施設を運営している社会福祉法人鞍手ゆたか福祉会(以下ゆたか福祉会)は、福岡県鞍手郡鞍手町に広がるのどかな田園風景の中にある。ゆたか福祉会の法人本部長、長谷川正人さんに話を聞いた。

社会福祉法人 鞍手ゆたか福祉会

やりがいを感ずる職場

ゆたか福祉会が運営する通所施設小牧ワークセンターにはクラフト工房とクッキー工房とがある。甘い香りが漂うオープンな雰囲気、クッキー工房では、15人ほどの施設利用者者と3人のスタッフが、真剣な表情で作業に励んでいた。ここではグリーンコープ生協ふくおかで取り扱われている手作りクッキーを製造販売している。作りはじめたのは10年前。グリーンコープ指定の原料を使い、味や形、価格など意見交換をしながら試作と検討を繰り返して、完成させた。当初は家庭用オーブンで作っていた。順次設備を整え、実績が上がり出した頃、今の店舗を買取った。クリスマスシーズンにはグリーンコープの組合員から温かいメッセージも寄せられ、関係者の励みになっている。「障がい者が作っている」ことを前面に出さず、品質で勝負しているクッキーは、インターネットオークションでも「非常によい」という評価を受けている。「今日はボーナスの

それぞれのペースで

ゆたか福祉会が運営する「サンガーデン鞍手」は、全国でも珍しい一戸建て風の入所施設。一般的に、法で定められた最低必要員のスタッフしか配置できず、入所者に集団生活のストレスがかかりやすい施設が多い中で、ここでは手厚いスタッフ体制を敷いている。入所者は日課や規則に縛られることなく家庭的な雰囲気の中で過ごし、ここから作



クッキー工房の前で。長谷川さんと施設長の菅野さん

業所へも通う。それぞれの作業所には入所者と通所者が入り混ざり、人間関係の閉鎖性からも解放される。日中はそれぞれのニーズにあった活動場所を過ごす。本人のペースに合わせ、作業だけでなく創作活動や作業療法、基本的な日常生活動作の訓練をする「自立支援グループ」、クッキーやポストカード・カレンダーなどを作って収入を得る「収益事業グループ」、就職に目標を置いた「就労移行グループ」に分かれている。

豊かな社会をめざして

障害者自立支援法が施行されたものの、福祉施設の運営は厳しく、利用者やスタッフに苦行を強い、こともあった。ストレスが重なり、帯状疱疹まで患ったという長谷川さん。今も厳しい状況であることには変わりないが、何とか安定してきた。今年には地域との交流のため、アート展を開催し、夏祭りも再開できるようにになった。

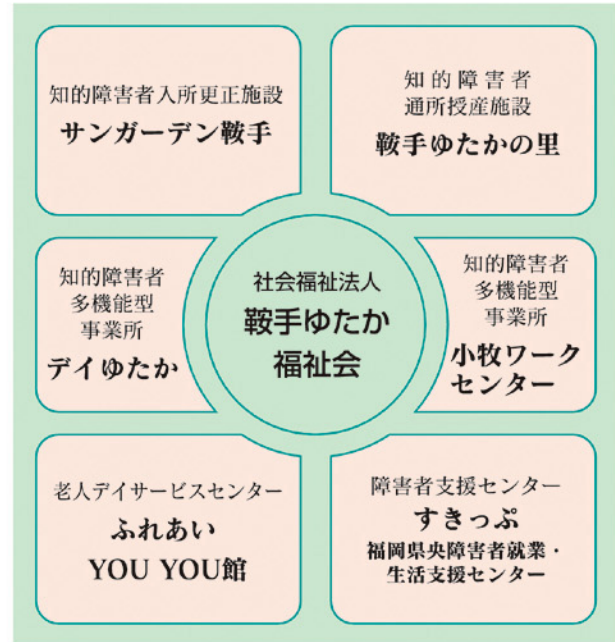
福祉への思い



スタッフは利用者の人権尊重を第一とし、利用者の名前を「さん付け」で呼んでいる。それを条文化している「スタッフ行動規範20ヶ条」はスタッフの心構えを説いたものだ。それに沿って、年に2回は「自己評価」をして、自分を振り返るようにしている。「人権意識」を持つことは、福祉を志すものにとつて、とても大切なことだと長谷川さんは言う。「大学卒業後、福祉施設の指導員として7年間、人間関係にも恵まれ楽しく働きました。自分の描く福祉を

実現するために独立を決心しました」。どんなに重い障がいの人を受け入れる施設を作りたいか。長谷川さんは鞍手に障がい者施設を作った。無認可の通所施設からスタートし、1991年障がい者小規模作業所「鞍手ゆたかの里」を開所。その後クッキー工房、障害者支援センター、知的障害者デイサービス、入所施設サンガーデン鞍手など複数の事業所を開所し、事業と規模を広げていった。2006年障害者自立支援法施行に伴い、知的障がい者デイサービス事業を多機能型(生活介護+就労移行支援)に移行し、現在に至っている。

ひと昔前なら、「一生貧乏してでも障がい者のために」という人が福祉を志した。今は若者が就職先としてどんどん入って来る。「この仕事が純粋に楽しいと感じられる人は長く生き生きと働いている」と長谷川さん。自身もその一人である。家族や自分が障がいを抱えたとしたら、どんな暮らしを望むのか。それを実現できるのがほんとうの豊かな社会、ゆたか福祉会はそのような共生社会をめざしていく。



放射能汚染測定結果報告(169)

2007年6月

放射能汚染食品測定室検査。NDは、検出限界値(1ベクレル/kg)以下です。※は、グリーンコープ連合取り扱い商品です。

検体名	産地	セシウム134	セシウム137	合計ベクレル/kg
※ バター	北海道	ND	ND	ND
※なたね油	オーストラリア	ND	ND	ND
※ごま油	ミャンマー	ND	ND	ND
※梅	大分県	ND	ND	ND
※煎茶	福岡県	ND	ND	ND
※はと麦ミックス茶	日本・中国	ND	ND	ND
※はぶ茶	インド	ND	ND	ND

リユース リサイクル データ

2007年6月分

回収本数 **953,523本**
回収率 **99.0%**
(5月20日～8月16日回収分)
牛乳びん

回収本数 **181,456本**
回収率 **49.0%**
リユースびん
※現在供給本数のカウント方法を見直しています。

回収重量 **13,680kg**
回収率 **62.1%**
トレイ

回収重量 **38,350kg**
回収率 **111.0%**
モールドバック

2007年7月の組合員数 374723人

(7/20現在)

グリーンコープ生協ふくおか
グリーンコープ生協さが
グリーンコープ生協(長崎)
グリーンコープ生協くまもと
グリーンコープかごしま生協



グリーンコープ生協おおさか
グリーンコープ生協ひょうご
グリーンコープ生協おかやま
グリーンコープ生協とっとり
グリーンコープ生協(島根)
グリーンコープ生協おいた
グリーンコープ生協みやざき
グリーンコープ生協ひろしま
グリーンコープやまぐち生協